

第7回 買物公園あり方検討会議 会議録

日時	令和6年1月23日(火) 14時～16時15分
場所	旭川市役所総合庁舎 7階大会議室A
出席者	<p>参加者13名</p> <p>有馬 準氏, 草野 常幸氏, 久保 竜弥氏, 佐藤 真紀恵氏, 四戸 秀和氏, 鈴木 伸治氏, 鈴木 美央氏(オンライン), 長尾 英次氏, 中田 崇太氏, 蜂須賀 咲来氏, 林 亜優氏, 三浦 詩乃氏, 山田 直人氏</p> <p>オブザーバー5名</p> <p>北海道警察旭川方面本部交通課長補佐 中川 隆博氏 国土交通省北海道開発局旭川開発建設部 治水課 流域治水対策官 結城 憲明氏 道路計画課 課長 坂本 毅氏 北海道上川総合振興局旭川建設管理部地域調整課企画調整係長 後藤 恵美氏 旭川市土木部次長 鎌田 昭範氏</p>
欠席者	高橋 遼太郎氏
会議資料	<p>資料：第7回 買物公園のあり方検討会議</p> <p>資料別紙：買物公園エリアプラットフォーム規約</p> <p>資料別紙：買物公園エリア未来ビジョン Ver. 1.0</p>
会議の公開・非公開	公開
傍聴の数	7名(報道1名)
会議内容	
1 開会	
2 議事	
(1) エリアプラットフォームについて	
事務局	(事務局より、資料P1及び資料別紙「買物公園エリアプラットフォーム規約」に基づき、説明を行った。)
座長	エリアプラットフォームについて、規約の案、今後のスケジュール、加入予定者に係る事務局の説明に対し、御意見をいただきたい。
参加者	規約の案の第2条の「目的」において、「買物公園エリアの新たな魅力と価値を創出する」とあるが、これは、今はない、新しい価値をつくっていくということなのか、それとも、既にある資源などを活用して全体の価値を向上させていくというように、広い意味を持っているのかについて確認したい。

事務局	「新たな魅力と価値を創出する」という文言については、新たな価値をつくっていくことのほか、既にあるものについても生かしながら、魅力を高めていくことも含めた意味である。
参加者	文言のみを捉えると、今は行われていないことをこれから積極的に進めていくというように見えることから、既にあるものも生かすということであれば、そのような意味も伝わるように規定の仕方を変えても良い。
座長	エリアプラットフォームについては、スタートして、徐々に活動を行いながら組織を変えていく、形を変えていくという想定であることから、規約についても、活動が進む中で、その都度、見直していくというイメージで良い。
副座長	規約の案の第8条の「経費」について、補助金ありきではなく、会員の方々が、自立的に財源の確保も含めて活動していくという意図で「特に事務局からの提示がない限り、会員の自己負担とする。」と規定していると考える。他のエリアプラットフォームでも、このような規定をされている場合もあるが、例えば、来年度に実施する社会実験については、事務局からの提示があって実施するものであることから、会員の負担はないという考え方で良いか。
事務局	来年度、市で実施する社会実験については、エリアプラットフォームの会員の一人である旭川市の予算で、旭川市が費用を負担して実施するということである。
副座長	「事務局からの提示」については、どのような場合が考えられるのか。例えば、市が何らかの助成金を受けることができた場合については、市が費用を負担するということになるのか。
事務局	市が助成金を受け、エリアプラットフォームの活動を行う場合には、市が費用を負担するということとなる。 その他、現段階で具体的に想定していないものであっても、会員の方が費用を負担しなくても良い方法があった場合に、費用を負担しないこともできるという要素を残した規定としている。
座長	エリアプラットフォームの組織が成熟し、例えば、今後、外部の団体から、業務の委託を受けることもあり得る。そのようなときにも、事務局からの提示を受けて活動することとなる。
参加者	今後のスケジュールについて、1月下旬から2月上旬に、参加予定団体などへの入会の説明を行うとのことであったが、本検討会議に参加している団体のほかにも入会の募集を行うのか。それとも、まずは本検討会議に参加している団体のみへの説明となるのか。

事務局	<p>当初については、本検討会議に参加していただいている団体や個人の方を中心に声をかけさせていただく。</p> <p>その後、3月20日に、ミニシンポジウムの開催を予定しており、新しくつくられる未来ビジョンやエリアプラットフォームについて、広く発信していきたいと考えていることから、そこから、興味のある方や、活動に参加したい方について広く募集を行っていききたいと考えている。</p>
参加者	ミニシンポジウムは、誰でも参加できるものなのか。
事務局	誰でも参加できる形式で開催したいと考えている。
参加者	<p>ミニシンポジウムでエリアプラットフォームに関心を持ち、入会しようとする場合、規約の案によると、「事務局が別に定める書類を事務局に提出し、その承認を得なければならない。」とあるが、承認を得られない場合はどのような場合か。</p> <p>誰でも入会できるとなると、収集がつかなくなる場合もあると考えられるので、様々なことを想定した方が良い。</p>
事務局	入会の申込があった場合には、基本的には、入会を承認していきたいと考えているところであるが、御指摘のとおり、様々な場合が考えられることから、事務局の承認を必要とすることとしている。
(2) 未来ビジョン（概案）について	
座長	未来ビジョンについて、前回までの議論の内容を踏まえて、事務局で作成した概案が示されている。この概案について、事務局から説明を受けた後、ワークショップ形式で議論を行うこととする。
事務局	(事務局より、資料P3～P12に基づき、説明を行った。)
グループワーク	<p>※ 参加者を次の3グループに分け、グループワークを実施した。</p> <p>グループ1：ゾーンⅠ（北彩都ガーデン・旭川駅～1条周辺）</p> <p>グループ2：ゾーンⅡ（2条～4条周辺）</p> <p>グループ3：ゾーンⅢ（5条～6条周辺）</p>
事務局	グループワークの結果について、各グループの代表者により、発表していただきたい。
参加者 (グループ1)	<p>旭川駅の南側について、現在もアクティビティなどが行われているが、もう少し日常的にアクティビティを行うことができたら良い、夕陽がきれいに見えるスポットがあり、もっと注目されても良い、池を活用し、平たい石を投げ合う「水切り大会」など、自然を上手く使いながら、親子連れの方々などに、日常的に使ってもらえるようになれば良いなどの意見が出た。</p> <p>旭川駅前について、駅前広場は、イベントが開催されているとき以外は寂しく感じるので、もう少し緑があれば良い、噴水についても、今よ</p>

	<p>りも勢いのある大きな噴水など、インパクトのあるようなものがあれば良い、夏の暑い期間に、風鈴のように、旭川家具などを活用し、きれいでカラカラと鳴るようなものをつくり、涼しげな空間を演出できると良いなどの意見が出た。</p> <p>また、石畳のようになっている道路や、レンガ造りの建物が並んでいるなど、レトロな感じが出ている趣きのあるスポットもあることから、そのような場所にも効果的に人を誘導できるような取組ができると良いという意見も出た。</p> <p>その他、高架下の駐車場についても、何か違う使い方ができないか、駅の北側についても、南側の緑が多いという要素を取り入れることができれば良いという意見も出た。</p>
参加者 (グループ2)	<p>ゾーンⅡ（2条～4条周辺）の特徴としては、乗換の起点となる1条にバス停があるほか、繁華街であるさんろく街に出ていく起点となる4条にもバス停があることが挙げられる。そのような状況の中、バス待ちができる場所のほか、家に帰る前のバス待ちの時間に少し人と話すことができる場所、例えば、さんろく街に出る前に待合わせができる滞在機能や場所などをもっとつくることできないかという意見が出た。</p> <p>そのような場所をつくり、交流を生むような場所にしていくときに、例えば、路上で音楽を演奏している人がいれば、文化的な香りや、文化的な活動がにじみ出るような場をつくることできる。そのように、単なる滞在ではなく、人の生活が豊かになるようなまちをつくっていくことが重要であるとの意見も出た。</p> <p>このゾーンには、昔から営業している歴史のあるカフェなど、駅前のゾーンとは違い、昔の買物公園の雰囲気が残っており、文化的な視点から活用していくことできるポテンシャルがある。また、駐車場などもあることから、暫定的に使えるスペースを効果的に活用していけないかという意見も出た。</p>
座長 (グループ2)	<p>「ザ・買物公園」というゾーンである。買物公園らしさが残っているのがこのゾーンであるという意見が出た。また、周辺には緑橋通りなど、魅力的なスポットがあることから、ここは買物公園だけではなく、広いエリアで考えていかなければならない。この点が、ビジョンにおけるポイントである。</p> <p>また、伝統のある空間であるということもビジョンのポイントになる。そして、古い建物を活用した新しい店舗ができてきているという話もあり、それが魅力になっている。買物公園だけでなく、周辺を含めて横向きで考えていくというような意見が出たことが印象的であった。</p>
参加者	<p>ゾーンⅢ（5条～6条周辺）については、やはり、「フードテラス」、</p>

<p>(グループ3)</p>	<p>「ふらりーと」、「旭川はれて屋台村」という3つの施設を中心に、食にまつわる施設がとて多いゾーンなので、それを生かしていくべきであるという意見が多かった。</p> <p>食に連動して、緑を増やしていきたいという意見もあった。緑を増やすことは買物公園の全体にいえることであるが、このゾーンに関しては、食べることができる緑を増やしてはどうかという意見である。</p> <p>駅前と比較した場合、公共的に使える施設が少ない中、フードテラスはとて価値のある施設であり、そこに北側と南側の両方に案内ができるような案内所的な機能や、様々な楽しみ方の案内ができるコンシェルジュ的な機能を持たせてはどうかという意見や、子どものために、市で授乳室の設置を検討してもらえないかという意見もあった。</p> <p>また、フードテラスには、2階に会議室などの機能があり、空いているときは貸出もされているようであるが、そのような機能も1階に置き、立ち寄る方が、手軽に入れるような形にできないかということや、「フードテラス」と「旭川はれて屋台村」と買物公園は、分断されているというイメージがあることから、室内が外ににじみ出てくるような設置物や、足場を室内から外まで敷くことなども考えられるという意見もあった。</p> <p>そして、イベントとしては、やはり食のお祭りとして、中通りを封鎖し、食べ物の屋台が並ぶことや、「ふらりーと」、「旭川フードテラス」、「旭川はれて屋台村」が連動した食のイベントができないか、広い駐車場のスペースを生かした「ミニ食べマルシェ」ができないか、キッチンカーをもう少し増やすことはできないかなど、食に連動した意見が出た。</p> <p>プレイヤーとしては、現在、フードテラスにあるまちなかマネジメント協議会に主に動いていただいている状況であるが、「旭川はれて屋台村」には、とりまとめ役となる人がいないことから、とりまとめ役を担う人やプレイヤーが出てくれば、もう少し盛り上がるという意見や、ストリート文化に関して、ストリートファッションのお店の方が優秀なプレイヤーであり、プレイヤーがいる部分については、しっかりとした未来ビジョンを描いていけるのではないかという意見も出た。</p> <p>また、このゾーンには、廃ビルが多く、つららが多くなるなど危険なこともあることから、廃ビルなど、使われていない状態で危険な建物をデータベース化して公開していくことで、危険であることを認知してもらい、最終的には、改善していくという方向に導けないかという意見も出た。</p>
----------------	--

事務局	座長と副座長に、グループワークの総括をしていただきたい。
副座長	<p>買物公園エリアとはどこを指すのかということについて、これまでの行政の文章などでは、縦の軸が強調されていたところ、今日の皆様の話から、横をつなぐことで、むしろ縦の魅力が浮き立ってくるのが分かってきた。今後、エリアプラットフォームで活動していく上で、エリアが広がっていくことが、今回のグループワークによって見えてきたということが印象的であった。</p> <p>また、歩いて楽しいまちが、車中心のまちより何が良いかということについて、音や、食べるもののほか、車に乗っていると分からなかった香り立つものを感じるなど、五感で楽しめることであるという意見も多く出ており、これらは未来ビジョンに生かせるようなポイントとなると考えた。</p>
座長	<p>私も同じような印象を受けたのだが、皆様の話からは、例えば、個別の店舗や、こんな店舗があった、こんな面白い店舗ができていくなど、具体的なまちの魅力を意識しながらお話をしていただき、とても良かったと感じている。そのような視点で考えたときに、買物公園だけではなく、横のつながりも考えていくとどうなるかという発想が出てきているので、そのようなことも、未来ビジョンに反映できれば良いと考える。</p> <p>また、皆様は、空き空間、使われていない空間がどこにあるのかということをよく把握されており、それを活用するという意見も出た。これは社会実験のポイントになる。駐車場などのスペースをどう活用していくかという意見や、ビルの中で使われていない部分についても、暫定的利用できないかという意見も出たことから、それらを活用することで何かができるのではないかとということも含めて、社会実験の内容を考えていくことができる。</p>
(3) 社会実験 (案) について	
事務局	(事務局より、資料P14～P17に基づき、説明を行った。)
グループワーク	※ 参加者を3グループに分け、社会実験 (案) (モビリティ) について、グループワークを実施した。
事務局	グループワークの結果について、各グループの代表者により、発表していただきたい。
参加者 (グループ1)	<p>このグループでは、モビリティという課題について、多様なモビリティのあり方があるのではないかと考えた。</p> <p>6条や7条に住む高齢者の方が、買物をするときに、近くにスーパーなどがないことから、電動カートを使って駅前の方に行くというときには、南北に移動するルートが便利であるのは当然であるが、それだけで</p>

	<p>はなく、初めて買物公園に来た人や、駅前から街並みを見て回りたいという人たちに対しては、買物公園の南北だけでなく、緑橋通や昭和通も含めて、スポットとなるところを回っていくというルートもあれば良いという意見が出た。</p> <p>また、モビリティの多様性に関しては、移動することだけが目的となるのではなく、モビリティに乗ることそのものが目的になるようなもの、例えば、蒸気機関車のような形のモビリティとする、雪が降るという旭川の特性を生かし、買物公園に犬ぞりを走らせるなど、多様性についても考えられると良い。</p> <p>モビリティを考えるときには、自転車を忘れてはならないと考える。買物公園に自転車の乗り入れができないのであれば、緑橋通や昭和通に自転車道路をしっかりと整備して、そこに分かりやすくルートを表示し、走りやすくしてはどうか。また、ロードバイクやクロスバイクに好んで乗る人は、サイクルラックがあれば、そこに停めたいと考えるので、おしゃれなカフェとサイクルラックをセットにしてそこに置くようにするなどすれば、人が周遊、回遊するようになるのではないのかという意見が出た。</p> <p>そして、かつては、買物公園を中心として、緑橋通や昭和通を周回するバスが実験的に走っていたこともあるようだが、そのようなループバスがあれば良いという意見も出た。</p>
<p>参加者 (グループ2)</p>	<p>私たちのグループでは、まず、複数人乗りの電動カートは、買物公園通りを走らせないという方向で話が進んだ。買物公園の中を通ることにより、歩行者の流れなどを阻害してしまうことも考えられることから、駅や駅前の商業施設、市役所、文化会館、図書館、美術館、さんろくエリア、デザインギャラリー、北彩都ガーデンなど、沿道の主要なポイントを周回するような形で、ジグザグに走行してまちなかの様々な所を見てもらおうということをポイントとして考えた。</p> <p>また、その他のモビリティについては、主な利用者のターゲットを高齢者の方とすることを考え、住む場所の近くにバス停がない方などにモビリティを効果的に活用してもらい、その方の足になることができれば良いという意見も出た。</p> <p>電動キックボードのレンタルについて、電動キックボードは運転免許が必要なものもあることから、学生や、免許を所有していない方に対しては、乗り捨てができる自転車の方が利用しやすいのではないのかという意見も出た。</p> <p>また、ホテルを利用している観光客の方から、遅い時間までまちなか</p>

	<p>を回ってみたいが、帰りが心配になるという御意見もあるということから、そのような観光客をターゲットとして、まちなかを歩いた帰りにモビリティを使ってホテルまで戻ってもらうというような使い方もできたら良いという意見も出た。</p>
<p>参加者 (グループ3)</p>	<p>キックボードについては、駅前と市役所前の2か所にレンタルスポットがあれば、2か所にあることにより、どちらから乗ることも返すこともできて良いという意見が出た。また、キックボードでの移動はホテルと駅前をショートカットしてしまうような感じになり、滞在空間があまり生かされないのではないかという考え方もあった。</p> <p>電動カートについては、買物公園の中を通すと滞在空間が減ってしまうことから、違う使い方ができた方が良いという意見があり、グループ2と同様、ジグザグに通す方が良いという結論になった。その上で、地元の人だけではなく、観光客の方たちも普段はあまり通らないような、仲通りばかりをジグザグに通るというルートも面白いと考えた。曲がっている電柱や、仲通りにしかないスポットもあるので、そのような所も見てもらいながら、観光バスのように、「ここにはこんな場所があります」というアナウンスもあれば楽しいと思う。仲通りにも人の流れを創出することができれば、出店などが、メインストリートだけでなく、仲通りにも普及してくるのではないかと思う。</p> <p>電動カートは、おそらく、観光客の方にメインで使われることから、はとバスの的なものや、更にエンターテイメント性を持たせて、アトラクションのようなものにすれば、地元の人も一度は乗ってみたいということにもなると思う。モビリティにモニターなどを付け、通る場所を宣伝してくれるようにする、通るルートに飾り付けをする、ラッピングバスのように広告を載せるようにするなど、様々なやり方があると思うが、広告収入などにより、ランニングコストも賄えるようになってほしいと思う。また、自分で運転しなくても良いことから、高額であると聞くと、飲食しながら乗ることができるものの方が良いとも思う。</p> <p>そして、社会実験のときにはできないとしても、実験が終わり、実際に運行することになった際には、木工のまちということを生かし、見た目にもこだわり、地元の企業と協力しながら、形をつくっていった方が楽しいと思う。そして、社会実験の中では、駅前で自転車のレンタルが行われていることや、ピクニックシートの貸出が行われていることなどがあまり知られていないことがもったいなく思われることから、社会実験に合わせ、そのような既存の取組もアピールすることができれば良いと思う。</p>

	<p>また、アピールや宣伝の仕方について、年齢層によって効果的な方法が異なる。若い方の話では、主にインスタグラムを活用しているとのことであり、インスタグラムなどのSNSを活用して、かつ、インフルエンサーの方にもお願いしながら、実験をやっていることに加え、既存のサービスについても、目立つような形で、知ってもらえるようにできれば良い。特に、SNSについては内容が残るので、何かのきっかけで見えてくれる人がいるなど、後々にも効果が出てくると思う。</p>
事務局	<p>座長と副座長に、グループワークの総括をしていただきたい。</p>
副座長	<p>グループワークという形式を設けたことにより、広くアイデアが出た。もちろん、いただいた意見などを全て社会実験で検証できるということにはならないと考えるが、多様な案が出る中で、選択肢ができたということがとてもよかった。</p> <p>滞在空間の設置をメインとするのであれば、モビリティはそれらをつなぐという意味であり、先ほどの横のつながりとも関連してくるが、最短距離でつなぐということではなく、回り道をすることによってつなげる方法もあるというアイデアをいただいたと感じている。</p> <p>また、モビリティについては、広告収入を得ることなど今後の運営に関する意見や、乗って楽しい乗り物にしていくという中で、旭川のデザイン力を生かせないかという意見も出たところであり、このまちだからこそその乗り物という視点からの御意見であったと感じている。今後の議論も楽しみである。</p>
座長	<p>全体的に、どのようにして人に動いてもらおうかという考え方の整理をしっかりとした方が良い。自転車の話も出たが、そういうものを抜きにして考えるのではなく、トータルで考えた方が良い。</p> <p>買物公園だけではなく、市役所、常磐公園、図書館、美術館、文化会館など、周辺に様々な施設があるので、それらと買物公園をどのようにつなぐのかという考え方であり、これは、誰を対象にしていくのかということがポイントになってくる。</p> <p>また、まちの魅力をどのように知ってもらおうかということとセットで考えた方が良く、単なる補助手段ではない発想で考えた方が良くということがポイントとしてあり、面白いと感じた。</p>
(4) 今後のスケジュール	
事務局	<p>事務局より、今後のスケジュールについて、次のとおり、説明を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回会議は、令和6年3月19日（火）14時からを予定 ・場所は、今回と同じ、旭川市役所総合庁舎7階第会議室Aを予定

	<p>・令和6年3月20日（水）には、買物公園エリアプラットフォームが主催するミニシンポジウムの開催を予定</p>
座長	<p>未来ビジョンについては、次回の会議において、案として確定させるということとなる。それに当たっては、私と副座長と事務局にお任せいただくという部分も出てくることもあることから、御了承いただきたい。</p> <p>また、社会実験の案については、これから議論していくという流れであり、次回会議において骨格を示すこととなる。</p>
3 閉会	